

論文

信念と生活意識との関係

隈元 美貴子¹⁾・柳田 元継²⁾

キーワード：信念，生活意識，因子分析，共分散構造分析

要旨：生活行動を理解するうえで、これまでに生活意識を調査研究した例は多くみられるが、この生活意識が構成されるにあたり、人の信念がどう関わるか明らかにした報告は少ない。そこで、本研究では、対象者を大学生とし、信念と生活意識との間に関係がみられるかどうかを明らかにすることを目的とし、まず、信念に関するアンケートを作成し、生活意識に関するアンケートと併せて質問紙調査を行い、その結果について検討を行った。まず、信念を測定する 25 項目への反応を因子分析（主因子・プロマックス回転）し、固有値 1 以上の 5 因子を抽出し、それぞれ、「信頼」「新奇性」「チャレンジ精神」「優位性」「お金」と命名した。次に、生活意識を測定する 64 項目への反応を因子分析（主因子・プロマックス回転）し、固有値 1 以上の 6 因子を抽出した。それぞれ、「充実感」「健康意識」「身だしなみ」「不信感」「向上心」「家族」と命名した。ここで、生活意識と信念の因果関係を明らかにするため、共分散構造分析を行った。適合度指標は、 $GFI=0.994$ 、 $AGFI=0.979$ 、 $RMSEA=0.000$ を示し適合度が非常に高いと言える。潜在変数間のパス係数は、信念の「信頼」から生活意識「身だしなみ」のパス係数は 0.48 で正の因果関係を示した。以上の結果から、今回対象とした大学生において、「信頼が必要」という信念をもっている学生ほど、「身だしなみを気にする」という生活意識をもつことが明らかになった。

緒言

我々は、日常生活において様々な信念を持っており「早起きは三文の得」「食事は一日三食きちんと摂る」「約束や時間・ルールは必ず守る」「いつもありがとうの感謝の気持ちを忘れずに」などが例として挙げられる。信念 (belief) とは、ブリタニカ国際大百科事典によると、ある事象、命題、言説などを適切なものとして、ないしは真実のものとして承認し、受容する心的態度で、目標到達のための特定の行動選択を含む積極的な活動の可能性を持つと定義されている。一方で、大辞林によると固く信じて疑わない心、行動の基礎となる態度と定義されている。我々の日常会話においても、「信念の人」や「あの人は信念がない」というように使われており、ある事柄についての確固として動揺しない認識ないし考えをいう。

心理学では、個人が接触している世界のある側面に対する感情、知覚、認識、評価、動

1) 山陽学園大学総合人間学部生活心理学科

2) 有限会社 NTC 技建 人間・環境開発部

機、行動傾向などの心理作用の総合的で持続的な構えを「態度」という概念で考えるが、信念はその認知的要素の部分ないし側面を形成しているといえる。知覚や認識は、様々な経験の構造化・再構造化に基づくものであるから、その持続的に安定した産物である信念もまた構造化されており、信念の対象である事物や存在の種々な側面についての認知が首尾一貫して組み込まれている。したがって、信念と生活行動の間に何かしらの関係性があることが考えられる。

先行研究において、ネスとデンスモアは、社会的信念と被服行動との関係について報告しており、保守的服装の学生と、ヒッピー的服装の学生との間に社会的信念に関して有意な差があり、保守的信念をもつ学生がその服装において保守的であり、逆に、急進的信念をもつ学生がその服装においてヒッピー的であった¹⁾。また、ベアーとモゼルも、学生のもつ伝統的宗教信念、保守的政治信念と伝統的修道女衣服に対する態度の間にそれぞれ正の相関が存在することを示唆した²⁾。

他方で、隈元は、生活信条と生活意識、衣生活意識、着用行動、購買行動に対するアンケートを行い、それぞれにおいて因子分析を行い、抽出した因子間に因果関係が認められるかどうかパス回析を行った³⁾。その結果から、生活信条において社会性のある考え方を示す人は、衣生活において自尊心や自信を持っており、購買行動では嗜好優先の傾向を示すことを示唆した。このことは、生活意識が信条（本研究では信念と解釈している）に起因し、生活意識が階層的に形成されることを示している。また、こうして形成された生活意識が被服行動と因果関係にあることから、生活行動分析をするにあたり、個人の信念に関する情報が鍵を握る可能性が考えられる。

そこで本研究では、対象者を大学生とし、信念と生活意識との間に関係がみられるかどうかを明らかにすることを目的とした。まず、研究を始めるにあたり、隈元らのアンケート用紙を使用し、予備調査を行ったところ、因果関係が認められなかった。その理由として、質問項目が現在の社会情勢や環境にそぐわないものが含まれていた可能性があったので、アンケートの再作成を行うこととした。その際、信念とされやすい江戸・上方のいろはかるたのセリフや四字熟語、故事成語、その他ことわざの調査および分類を行い、生活意識のアンケート結果を因子分析したときに抽出される因子と因果関係が認められる可能性のある質問項目を設定した。

対象および方法

S大学の学生を対象として質問紙調査を行った。実施時期は2016年11月、対象人数は213名、回収数は213名で、回収率は100.0%であった。有効回答数は146名、有効回答率は68.5%であった。調査項目は、①基本属性、②信念に関する25項目、③生活意識に関する64項目から構成されている。統計分析は、単純集計、因子分析はSPSS16.0Jを用い、共分散構造分析をAMOS ver22を用いて行った。

結果および考察

(1) 基本属性の単純集計

信念と生活意識との関係について明らかにするために質問紙調査を行い、単純集計を行った。まず、対象者の所属学科の割合を図1に示す。その結果、K学科が56.8% (83名)、

S学科が43.2% (63名)であった。図2に対象者の学年を示す。学年は、1年が52.1% (76名)、2年が33.6% (49名)、3年が8.2% (12名)、4年が6.2% (9名)であった。図3に対象者の年齢を示す。年齢は、18歳が14.4% (21名)、19歳が42.5% (62名)、20歳が27.4% (40名)、21歳が5.5% (8名)、22歳が7.5% (11名) 23歳以上が2.7% (4

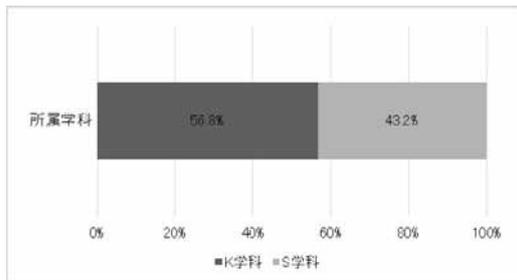


図1 対象者の所属学科

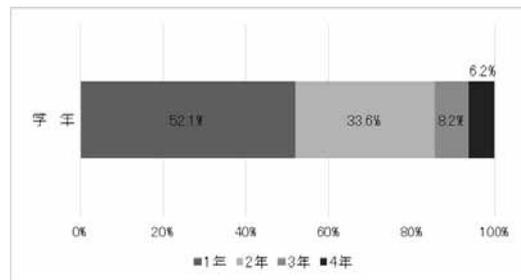


図2 対象者の学年

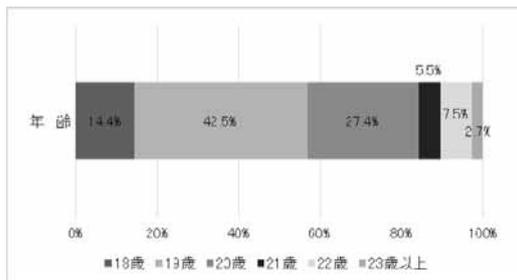


図3 対象者の年齢

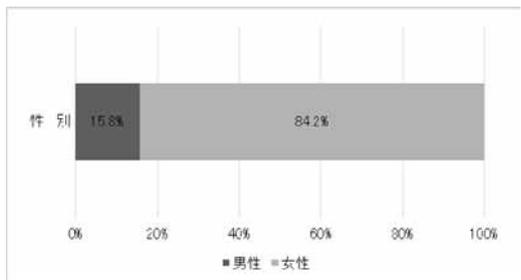


図4 対象者の性別

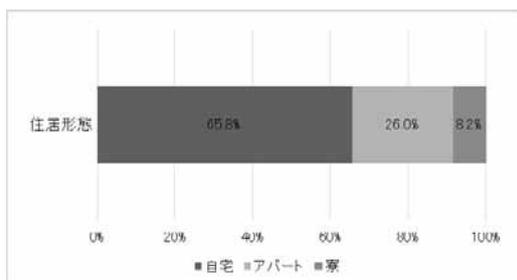


図5 対象者の住居形態

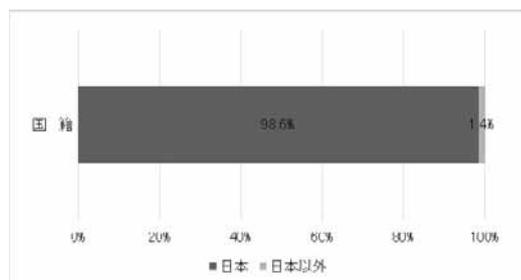


図6 対象者の国籍

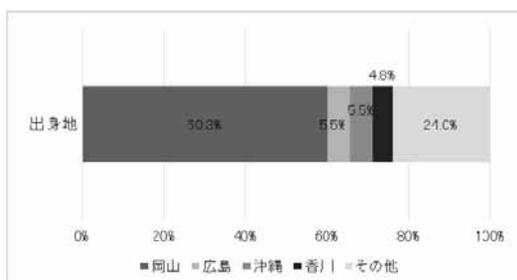


図7 対象者の国籍

名)であった。図4に対象者の性別を示す。性別は、男性が15.8%(23名)、女性が84.2%(123名)であり、大半が女性であった。図5に対象者の住居形態を示す。住居形態は、自宅が65.8%(96名)、アパートが26.0%(38名)、寮が8.2%(12名)であった。図6に対象者の国籍を示す。国籍は、日本が98.6%(144名)、中国が1.4%(2名)であった。図7に対象者の出身地を示す。出身地は、岡山県が60.3%(88名)、広島県が5.5%(8名)、沖縄県が5.5%(8名)、香川県が4.8%(7名)、その他が24.0%(35名)であった。

図8に対象者の1ヶ月の小遣いを示す。1ヶ月の小遣いは、3千円未満が6.2%(9名)、3千円以上5千円未満が4.1%(6名)、5千円以上1万円未満が21.2%(31名)、1万円以上2万円未満が19.2%(28名)、2万円以上3万円未満が9.3%(14名)、3万円以上4万円未満が10.2%(15名)、4万円以上5万円未満が8.2%(12名)、5万以上7万未満が13.0%(19名)、7万以上10万未満が5.5%(8名)、10万以上が2.7%(4名)であった。図9に対象者の1ヶ月の被服費を示す。1ヶ月の被服費は、3千円未満が24.0%(35名)、3千円以上5千円未満が19.9%(29名)、5千円以上1万未満が37.0%(54名)、1万円以上2万円未満が15.1%(22名)、2万円以上3万円未満が3.4%(5名)、3万円以上~7万円未満が0%(0名)、7万以上10万未満が0.7%(1名)、10万円以上が0%(0名)であった。

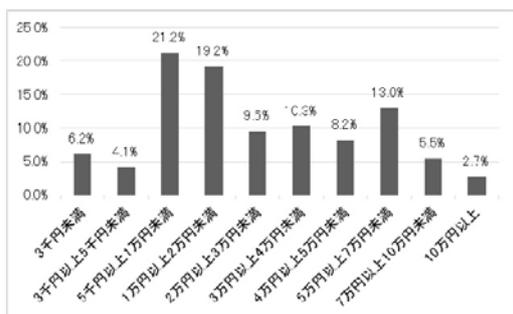


図8 対象者の1ヶ月の小遣い

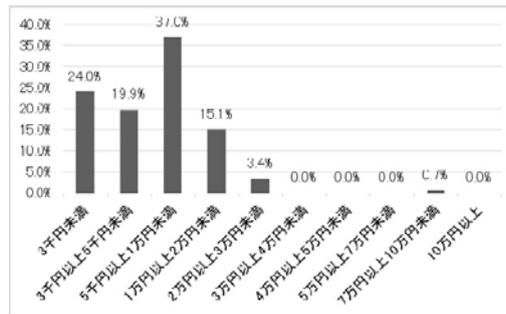


図9 対象者の1ヶ月の化粧代

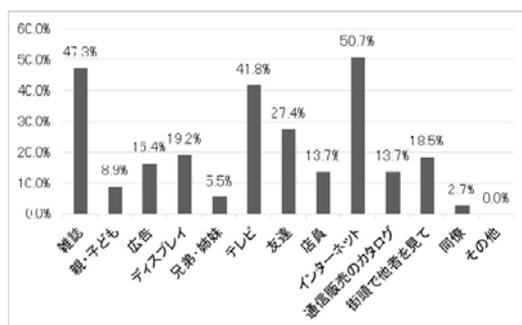


図10 化粧に関する情報を得る手段

図10に被服に関する情報を得る手段を示す。雑誌からが47.3%(69名)、母親・子供からが8.9%(13名)、広告を見てが16.4%(24名)、ディスプレイを見てが19.2%(28名)、兄弟・姉妹からが5.5%(8名)、テレビを見てが41.8%(61名)、友達からが27.4%(40名)、店員からが13.7%(20名)、インターネットを使ってが50.7%(74名)、通信

販売のカタログを見てが 13.7% (20名)、街頭で他者を見てが 18.5% (27名)、同僚からが (アルバイト先を含む) 2.7% (4名)、その他は 0% (0名) であった。

(2) 信念の因子分析

信念を測定する25項目への反応を因子分析 (主因子・プロマックス回転) し、固有値1以上の5因子を抽出した (表1)。第1因子には、「信頼できる相手が必要である」、「人生を共にするパートナーがあるべきだ」、「人は一人では生きていけない」、「一生懸命な姿は美しい」などの項目の因子負荷量が高いことから、「信頼」の因子と解釈した。第2因子には、「新しいことを積極的に取り入れるべきだ」、「豊かさとは精神の充実である」、「こだわりを持つべきだ」などの項目の因子負荷量が高いことから「新奇性」の因子と解釈した。第3因子には、「精神論 (努力・根性) は必要だ」、「挑戦することはいいことだ」などの項目の因子負荷量が高いことから「チャレンジ精神」の因子と解釈した。第4因子には、「常に人より優位であり続けるべきだ」の因子負荷量が高いことから「優位性」の因子と解釈した。第5因子には、「お金を得るためには犠牲が必要である」、「お金は自分の足りないところを補ってくれる」などの項目の因子負荷量が高いことから「お金」の因子と解釈した。

表1 信念因子分析

質問項目	FACTOR	I	II	III	IV	V
信頼できる相手が必要である		0.783	-0.046	0.025	-0.135	0.025
人生を共にするパートナーがあるべきだ		0.729	0.057	0.008	-0.012	0.041
人は一人では生きていけない		0.577	0.015	0.159	-0.160	-0.005
一生懸命な姿は美しい		0.548	-0.006	0.308	0.081	-0.083
孤独が好きである		-0.523	0.285	0.058	-0.079	-0.065
新しいことを積極的に取り入れるべきだ		-0.148	0.824	0.096	-0.116	0.020
豊かさとは精神の充実である		0.121	0.698	-0.177	-0.130	-0.125
こだわりを持つべきだ		-0.033	0.623	0.075	0.199	-0.131
精神論 (努力・根性) は必要だ		0.080	-0.063	0.705	0.054	0.160
挑戦することはいいことだ		0.294	0.044	0.589	-0.041	0.099
嫌なことは避けて通るべきだ		0.003	0.088	-0.527	0.036	0.313
常に人より優位であり続けるべきだ		-0.101	-0.055	0.046	0.887	-0.086
お金を得るためには犠牲が必要である		-0.084	0.007	0.224	-0.159	0.600
お金は自分の足りないところを補ってくれる		0.045	-0.183	-0.022	0.003	0.599
	因子間相関	I	II	III	IV	V
	I	—	0.529	0.195	0.150	0.316
	II		—	0.329	0.299	0.396
	III			—	0.109	0.053
	IV				—	0.363
	V					—

(3) 生活意識の因子分析

生活意識を測定する64項目への反応を因子分析（主因子・プロマックス回転）し、固有値1以上の6因子を抽出した（表2）。第1因子には、「熱中したい」、「夢中になりたい」、「生活の中で生きがいや充実感を感じたい」、「何かに打ち込みたい」などの項目の因子負荷量が高いことから「充実感」の因子と解釈した。第2因子には、「生活習慣病にならないように食事に気をつけている」、「健康意識は常に高いほうである」、「美容のために食事は意識している」などの項目の因子負荷量が高いことから「健康意識」の因子と解釈した。第3因子には、「大学に行く時、ファッションや身だしなみに気を遣う」、「スタイルを気に

表2 生活意識因子分析

質問項目	FACTOR	I	II	III	IV	V	VI
熱中したい		0.893	-0.014	0.047	0.024	0.053	-0.052
夢中になりたい		0.858	0.019	0.050	0.045	0.098	-0.065
生活の中で生きがいや充実感を感じたい		0.815	0.037	0.000	-0.113	-0.031	-0.120
何かに打ち込みたい		0.767	-0.064	0.080	-0.006	0.046	0.172
生活習慣病にならないように食事に気をつけている		0.055	0.944	0.120	0.102	-0.106	-0.083
健康意識は常に高い方である		-0.037	0.746	0.024	0.038	0.045	0.022
美容のために食事は意識している		0.019	0.689	0.219	-0.048	0.102	-0.070
大学に行く時、ファッションや身だしなみに気を遣う		-0.041	0.145	0.795	-0.115	-0.099	0.037
スタイルを気にする		0.231	0.166	0.697	-0.001	-0.141	-0.054
髪を染めると気分転換になる		-0.039	0.070	0.540	0.077	-0.184	0.197
ショッピングでストレスを発散することができる		-0.095	0.001	0.533	0.054	0.148	0.081
人生、お金がすべてである		-0.183	0.076	0.122	0.761	0.002	0.067
結局、自分しか信じられないと思う		0.038	-0.009	-0.043	0.760	0.103	0.106
人付き合いは面倒くさい		0.163	0.111	-0.012	0.571	-0.262	0.074
上を目指したい		0.253	0.036	-0.104	0.055	0.966	0.014
自分は好奇心が強いと思う		-0.026	0.010	-0.146	0.047	0.818	0.136
社会に貢献したいとは思わない		0.096	0.092	-0.102	0.159	-0.534	0.006
家族が一番大切である		-0.143	-0.037	-0.083	0.060	0.066	0.920
家族と仲がいい		0.082	-0.188	0.063	-0.001	0.013	0.809
家族のことが気になる方である		0.070	0.170	0.288	0.198	0.147	0.556
	因子間相関						
	I	—	0.053	0.256	-0.070	0.351	0.463
	II		—	-0.022	-0.073	0.299	0.257
	III			—	0.013	0.336	0.095
	IV				—	-0.055	-0.119
	V					—	0.227
	VI						—

する」、「髪を染めると気分転換になる」、「ショッピングでストレスを発散することができる」などの項目の因子負荷量が高いことから「身だしなみ」の因子と解釈した。第4因子には、「人生、お金がすべてである」、「結局、自分しか信じられないと思う」、「人付き合いは面倒くさい」などの項目の因子負荷量が高いことから「不信感」の因子と解釈した。第5因子には、「上を目指したい」、「自分は好奇心が強いと思う」などの項目の因子負荷量が高いことから「向上心」の因子と解釈した。第6因子には、「家族が一番大切である」、「家族と仲がいい」、「家族のことが気になる方である」などの項目の因子負荷量が高いことから「家族」の因子と解釈した。

(4) 「生活意識」と「信念」各因子の構造方程式モデリング

S大学学生の生活意識と信念の因果関係を明らかにするため、共分散構造分析を行った(図11)。生活意識 (life consciousness) の第3因子「L-F3 身だしなみ」の2項目と信念 (belief) の第1因子「B-F1 信頼」の3項目を観測変数にした構造方程式のモデルを検討した。まず、因果モデル全体が正しいかどうか評価するために、帰無仮説「構成されたモデルは正しい」という設定の下、 χ^2 検定を行ったところ、 $\chi^2=2.070$ (df=4)、 $p=0.723$ となり、モデルは棄却されなかった。次に、適合度指標をみると、GFI=0.994、AGFI=0.979、RMSEA=0.000を示したので、モデルの説明力、データへの当てはまりから適合度が非常に高いと言える。また、モデルの部分評価として、パス係数(標準化推定値)を見てみると、「信頼→身だしなみ」は5%水準で、残りはすべて0.1%水準で有意であり十分な値を示した。

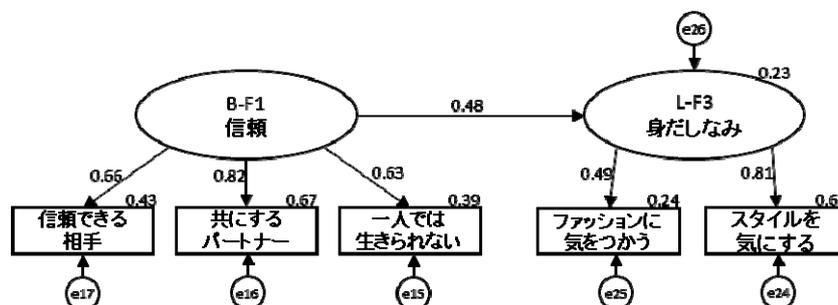


図 11 信念と生活意識の構造方程式モデリング

潜在変数(楕円形で表す)間のパス係数を見ると、「B-F1 信頼」→「L-F3 身だしなみ」(矢印は因果関係を示し、原因と結果を表す)のパス係数は0.48であり正の因果関係を示した。「B-F1 信頼」は「20 信頼できる相手が必要である (0.66)」と「24 人生を共にするパートナーがあるべきだ (0.82)」、「11人は一人では生きていけない (0.63)」とで構成され、「L-F3 身だしなみ」は「40 大学に行く時、ファッションや身だしなみに気を遣う (0.49)」と「14 スタイルを気にする (0.81)」で構成される。

以上の結果から、S大学学生において、「人は一人では生きていけない」、「信頼できる相手が必要」、「人生を共にするパートナーが必要」など「信頼が必要」という信念をもっている学生ほど、「大学に行く時、ファッションや身だしなみに気を遣う」、「スタイルを気にする」など「身だしなみを気にする」という生活意識をもつことが明らかになった。今後、性別や学年、経済状況等、属性間比較を行うことにより、信念が生活意識に与える影響を

詳細に明らかにする予定である。

引用文献

- 1) Kness, D. and Densmore, B. Dress and social-political beliefs of young male students. *Adolescence*. 1976, **43**, 431-442
- 2) Baer, D. J. and Mosele, V. F. Political And Religious Beliefs of Catholics And Attitudes Toward Lay Dress of Sisters. *The Journal of Psychology*. 1970 **74**, 77-83
- 3) 隈元美貴子. 女子大生の生活意識と被服行動について. 山陽学園短期大学紀要, 2000, **31**, 35-48